

## 第12回 土木学会 景観・デザイン研究発表会 シンポジウム

# 自然災害を上手にやりすごして、生き続ける町の風景

日時：2016年12月9日(金)14時～17時

会場：高知県立県民文化ホール オレンジホール

高知県は台風銀座であり常に自然災害と隣り合わせであるにも関わらず、四万十川の沈下橋、鏡川の町並み等に見られるように、ある程度の被害や不便を受け入れつつ、自然と共存しながら生活する様子が見受けられ、それが独特の景観を生み出している。本シンポジウムでは、河川の治水と防災の技術、思想の歴史について概観した後、高知の代表的な事例を通して、自然災害を上手にやりすごして生き続ける町のマネジメントと風景について考えたい。

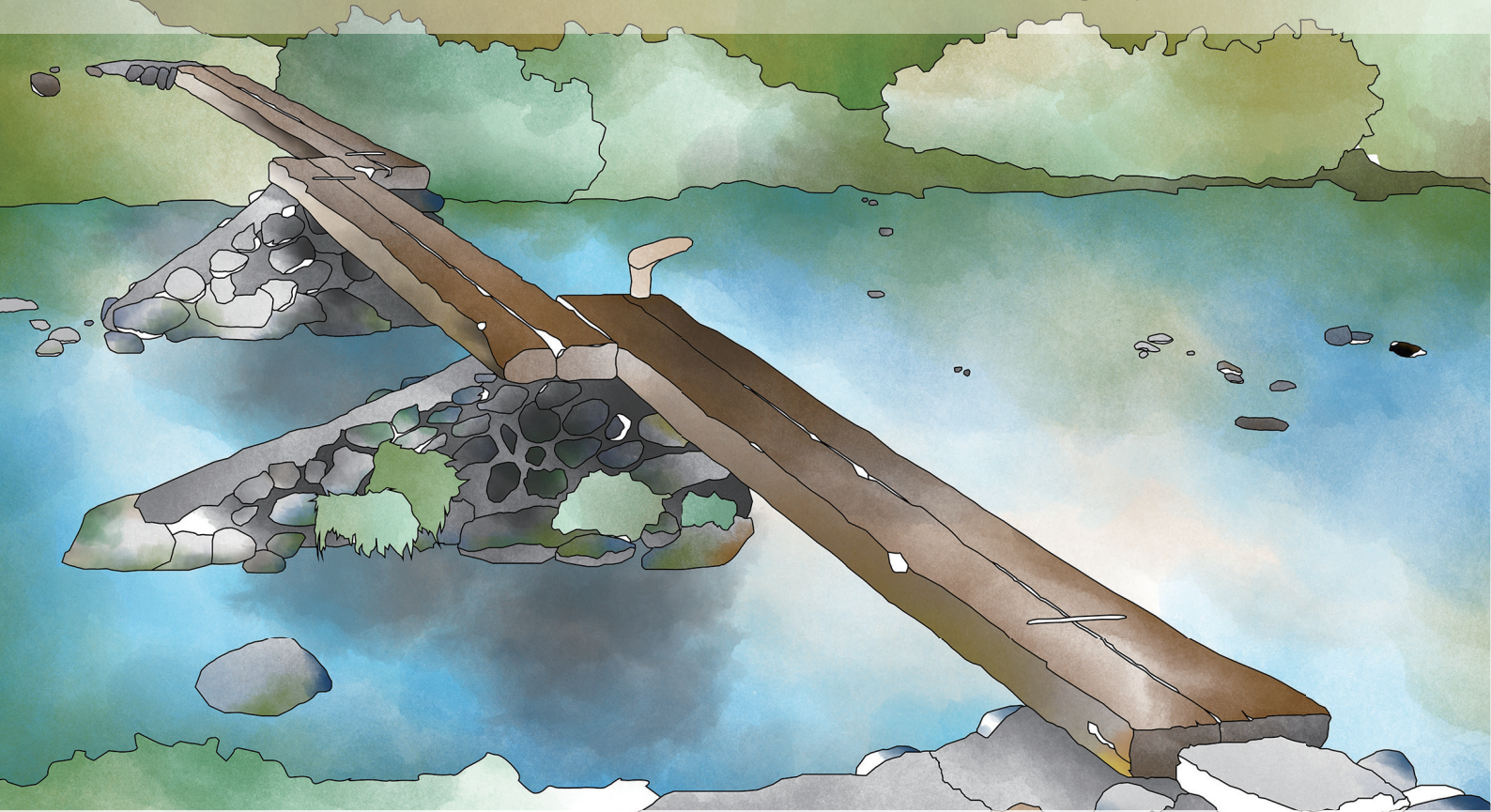
### 特別講演 「日本人の伝統的災害観と防災技術」 大熊孝氏(新潟大学 名誉教授)



写真提供：中村脩

東京大学大学院工学系研究科博士課程修了後、新潟大学工学部助手に着任、講師、助教授、教授を経る。2008年3月定年退職、同4月新潟大学名誉教授。

専門は河川工学、土木史。自然と人間の関係がどうあればいいのかを、川を通して研究しており、川の自然環境を守るとともに、治水・利水のあり方を地域住民の立場を尊重しながら考察している。主な著書に、「洪水と治水の河川史」など多数。



- 開会 14:00
- 特別講演 14:10～15:10  
「日本人の伝統的災害観と防災技術」  
大熊孝氏(新潟大学 名誉教授)
- パネルディスカッション 15:30～16:50  
コーディネーター：重山陽一郎氏  
(高知工科大学システム工学群  
建築・都市デザイン専攻 教授)

#### パネリスト：

- 土ヶ内美智子氏(料亭旅館「臨水」女将)  
事例紹介1「鏡川と川沿いの町並み」
- 溝淵敏彦氏(津野町教育委員会生涯学習課 課長補佐)  
事例紹介2「北川川と早瀬の一本橋(流れ橋)」
- 佐川徳和氏(四万十市産業建設課 課長補佐)  
事例紹介3「四万十川と沈下橋のある集落」

- 閉会 17:00

どなたでも参加いただけます  
参加費無料

事前申し込みは不要です。当日会場で受付をお願いします。

- 主催 土木学会 景観・デザイン委員会
- 問い合わせ  
土木学会 研究事業課 担当：林 淳二  
E-mail: j-hayashi@jsce.or.jp TEL 03-3355-3559
- 詳細 第12回景観・デザイン研究発表会ウェブサイト  
<http://www.jsce.or.jp/committee/lsc/conference>

## パネリスト



土ヶ内美智子  
料亭旅館「臨水」女将

### 「鏡川と川沿いの町並み」

高知市の中心部、鏡川沿いの緑の広場では、頻繁にイベントが開催されています。この広場に面した建物群は実は洪水が来ると一階部分が水没してしまいます。



溝渕敏彦  
津野町教育委員会生涯学習課  
課長補佐

### 「北川川と早瀬の一本橋」

早瀬の一本橋は洪水が来たら橋桁が流れ去ってしまうという流れ橋。でも橋桁はワイヤでつないでるので、洪水が去ったら元に戻して、また渡ります。



佐川徳和  
四万十市産業建設課 課長補佐

### 「四万十川と沈下橋のある集落」

今では全国的に有名な沈下橋は、洪水が来たら水没してしまいます。橋の近くには、川の水位の目印があって、どこまで水が来たらどんな準備をするか、決まっているのです。

## コーディネータ

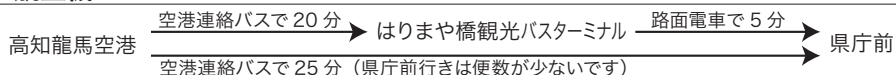


重山陽一郎  
高知工科大学システム工学群  
建築・都市デザイン専攻 教授

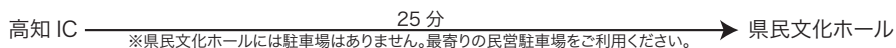
略歴：東京大学工学部土木工学科卒業、アブル総合計画事務所を経て、高知工科大学助教授、教授。  
主な作品は、天神川水門（島根県松江市）など

## シンポジウム会場 県民文化ホールへのアクセス

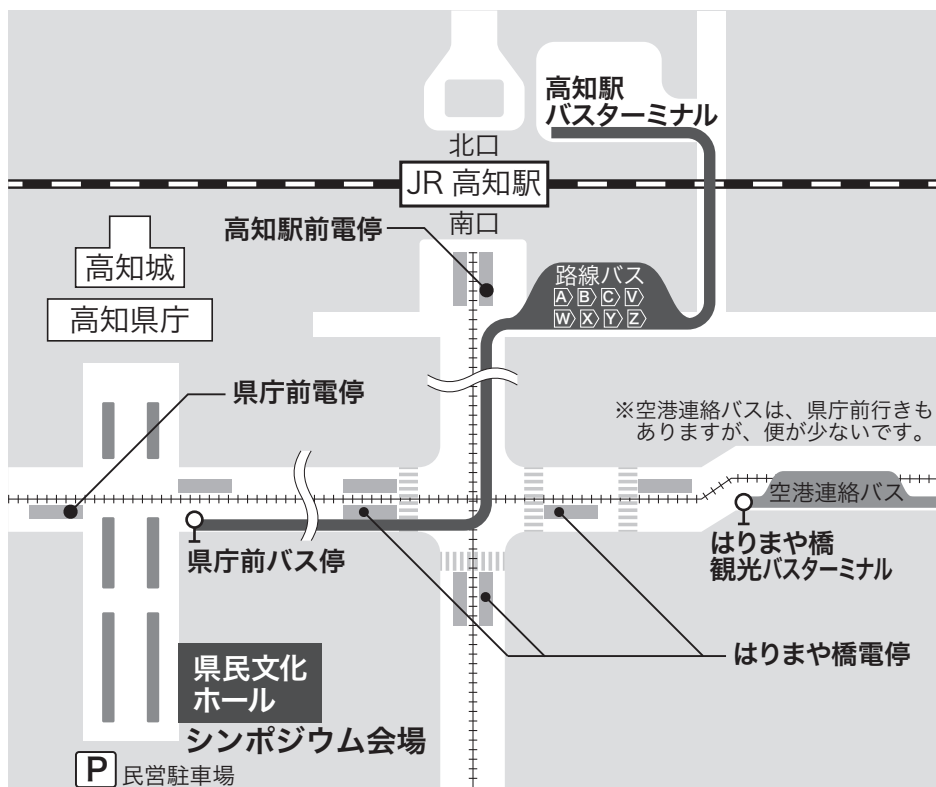
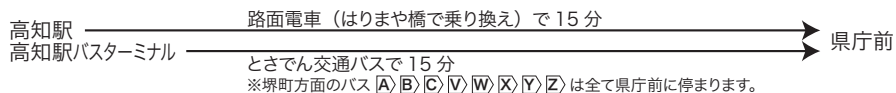
### ■航空機



### ■自動車



### ■JR+路面電車、路線バス



高知県立県民文化ホール